

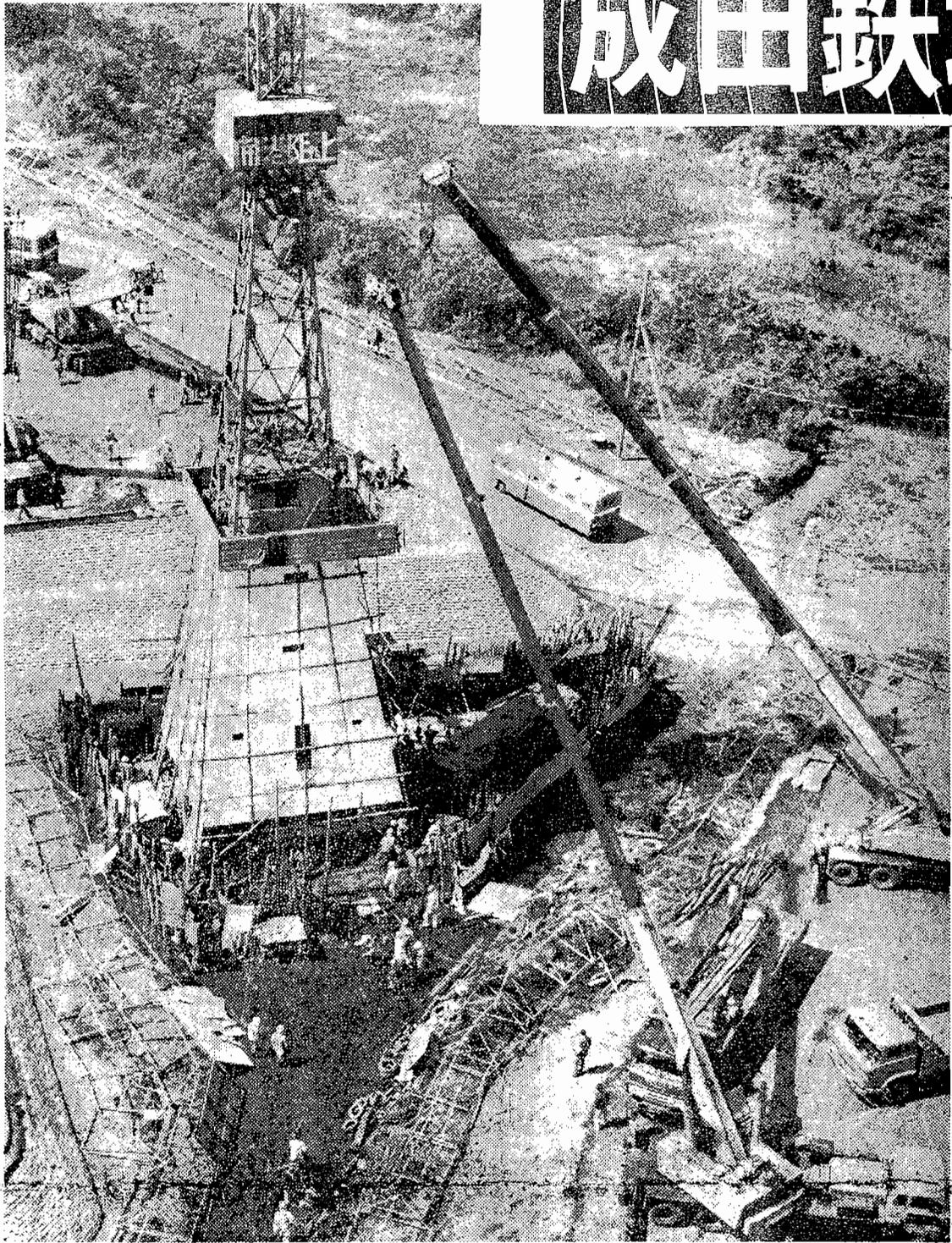
決戰資料

鐵塔破壞彈効！
東山君虐殺彈効！
開港実力阻止！

5・29三里塚全国総決起闘争

5月29日(日) 正午 三里塚第一公園

成田鉄塔、抜き打ち撤去



6日、成田空港での鉄塔撤去作業 (本社ヘリから同日午前9時30分)

反対同盟と100万人決起に恐怖した

国家権力・公団の大パテン・大ドロボウ!!

未明から抜き打ち

機動隊2千人 抵抗学生にガス銃 当局 電話線切り連絡断つ

この日午前八時三十分、千葉地裁の執行官が鉄塔をばて仮処分執行を宣言、次いで同四十分、大型クレーン車を使って撤去作業が開始された。

この日午前八時三十分、千葉地裁の執行官が鉄塔をばて仮処分執行を宣言、次いで同四十分、大型クレーン車を使って撤去作業が開始された。

この日午前八時三十分、千葉地裁の執行官が鉄塔をばて仮処分執行を宣言、次いで同四十分、大型クレーン車を使って撤去作業が開始された。

この日午前八時三十分、千葉地裁の執行官が鉄塔をばて仮処分執行を宣言、次いで同四十分、大型クレーン車を使って撤去作業が開始された。

公団幹部も県知事、運輸大臣も知らないヤミ討!!

北総台地は揺ぎもせず!

大義は三里塚農民にあり

“一切の制限取払う”

戸村委員、北原事務局長らが記者会見

「彼らには闘いのルールがわからねえ」——六日早朝、成田空港反対派の強硬な闘いを倒された二基の鉄塔に、一歩も近づけなかった反対派の農民たちの表情にはくもくとした怒りが入りまじっていた。三里塚・芝山東部空港反対同盟は、この日、現地で緊急実行役員会を開き、非公然活動の強化を決め、ゲリラ活動を呼びかけた。運輸省、公団は、この日をきりかたけに、年内開港に向けて、一気に突っ走ろうという構えだが、逆に反対闘争の火に油をそそいだことにもなりかねない懸念がある。



怒りをこめて記者会見する戸村委員長、北原事務局長（岩山・番神三叉路）

々と鉄塔を強奪した。私の気持ちには淡々としている。われわれの入れないところでもられたのではないかとともにしたい。やはり力での対抗し、機動隊一人一人をわれわれが倒していかなければならない。この日から新たな闘いが始まったのだ。最後は激越な調子に変わった。鉄塔に一歩も近づけない反対派は、この三里塚近くで終日、機動隊とにらみ合った。「心の痛みなんかあるもんか。これから先、何十年だって闘うぞ」と声を荒げながらもうすうす涙を浮かべる農婦もいる。「公団、警察はいつもこの手なんだ。六年前の第二次執行のときも、当日まで『やらねえ』とずっとおきなから抜き打ちにやった。これからは闘いのルールがねえ。空港への燃料輸送ルートも『乗客の足』も解決つかず、われわれだけに責任をかかせて、どうして年内開港が出来るんだ」。反対同盟の一人、農業機械屋平山（たけし）は田植え仕事をためてかじりつけてきた反対派農家の主婦たちは「鉄塔がなくなつたって、オラたちは笑わねえ。4・17集会に、全国から二万人以上の人がわざわざ応援に来たんだ。オラたちの大きな力にありがとうねえ」。かわらで、「おいつら、本当にひきょうだよ。私らには、悲憤感とか絶望感なんてありやしないよ」。そういう言葉とは裏腹に、くもくとした怒りがこめられていた。

「今こそ北総台地二十万人が立ち上がるんだ。創意工夫し、なごりの種をあらゆる手段で撒く」。北原事務局長は静かな調子で始めた。「福田政権の焦りが鉄塔撤去に近しい道を開いた。この日後、徐々に開いた記者会見で立ち上げた。ヘルメットの下のメガネの裏は涙。話し終えて、大きな息が息を吐いた。戸村一作委員長は静かな調子で始めた。「福田政権の焦りが鉄塔撤去に近しい道を開いた。この日後、徐々に開いた記者会見で立ち上げた。ヘルメットの下のメガネの裏は涙。話し終えて、大きな息が息を吐いた。戸村一作委員長は静かな調子で始めた」。

住民たちの声

このうらみに 闘争の連帯感

法的手続きを踏まず、暗黒裁判で鉄塔を倒されたうらみは尽れない。鉄塔を倒したところでなんの住民対策もなされていらない以上、しよせん、この空港は片肺だ。今後は二期工事区域四十三戸の一人として二期工事を断固阻止する

決意だ。二十三戸の敷地にほとんど反対派の家を建てれば鉄塔を倒すの騒ぎではなくなる。むしろ鉄塔撤去はこれからの反対闘争の起爆剤として連帯感が深まるだろう。

鉄塔撤去の 衝撃はない

鉄塔が倒されたからといってショックはない。権力側が押しつけてきた形ではできなかった。鉄塔には金もかけていたので、もう少しがんばりたかった。物足りない感じだ。オレも二期工事区域内に残っている二十三日の一人だが、みんなが結束す

政府・公団が 闘争の火に油

ればあと二本の清走路など出まっこない。向こうが代執行をかけてくれれば受けて立つだけだ。今後、反対闘争は、開港をめぐまもつたけつとすの過激な暴力行動・公団の買収工作から農地を守る闘争が並行して続くとした。

きけ 執念城の士のさげび!

目には目を、歯には歯を



鉄塔跡近くで抗議集会を開く反対同盟の人たち

七七年五月六日、この日は三里塚闘争、いやそのみならず日本階級闘争のエポックとなるであろう。福田内閣・公団はトロボウ猫のように抜きつち的に鉄塔を撤去した。機動隊四千人を動員して行ったこの暴挙は、一挙に三里塚闘争勝利への新たなたかいを引き出し、爆発させることになった。見よ、五月六日の暴挙にたいする三里塚反対同盟を先頭とするたたかう農民の怒りの炎を、

火煙うすまぐたたいは、鉄塔周辺器港、北総台地帯に渡って爆発的にひろがっている。いたるところで機動隊撃滅のたかい、あらゆる手段を使った階級的実力闘争が噴き出している。しかし、これはまだ、その端緒にすぎない。いよいよ、三里塚空港粉砕にむけて勝利の巨大な情勢がきりひらかれたのだ。三里塚空港反対同盟は五月六日、ただちに火煙と怒号うすまぐたたいの記者会見を行い新たな戦闘宣言を發した。以下の談話は、五・六暴挙にたいする怒りの言葉と戦闘宣言を収録したものである。(表題は編集委員会につけました。文責はすべて編集委員会にあります。)

新たな戦闘宣言

テ的な「開港キャンペーン」とはウラハラに「開港」に追いこむ巨大なたかいが渦まき、勝利の情勢がきりひらかれたのだ。三里塚空港反対同盟は五月六日、ただちに火煙と怒号うすまぐたたいの記者会見を行い新たな戦闘宣言を發した。以下の談話は、五・六暴挙にたいする怒りの言葉と戦闘宣言を収録したものである。(表題は編集委員会につけました。文責はすべて編集委員会にあります。)

ゲリラと大衆闘争を結合し持久戦を

戸村一作 反対同盟委員長

われわれの今後のたかいの方向は実力闘争というものをもっともと深く、尖鋭化していくことにある。しかし、単なるマインリティーとしては不完全である。実力闘争というものをどういう枠のなかで行うかというならば三里塚闘争が大量闘争を包含してゆくことが必要である。われわれ



をとりまく市民、子供をおぶったおっかさん、老人そっくり者のなかにおいてはじめてわれわれの実力闘争は完結しているのだ。今日、一番念頭にいるのは新左

政府公団のこの無法を許すな

石橋政次 反対同盟副委員長

強制撤去にたいして、怒りの言葉もいっつも言葉がない。なぜなら、いままでわれわれは民主法治国家のもとで、それを念まえて行動をとってきたにもかかわらず今回の鉄塔撤去は随分的に行われた。



強制的に決定がおりるといふ余りにスムーズに行われすぎている。一体、法律は重んじられているのか。絶対そうではない。公団と権力と裁判所が合意のなかで、事前から計画的に計画をねってやったことである。まず、これがいまの法治国家日本でなされるべきかどうか。しっかりと見直してほしい。

た。もはや「中道性」はない。とらで問題はそれのみならずとらまってはならない、大衆をどういつつに決起させてゆくか、いわゆる「爆動」が必要とされているのだ。そのなかにおいてはじつにゲリラが横行しているのだ。

そのためにはもっと進行する必要がある。そして敵の意表外に出発する。日本の人民はヒルマ、タイ、ラオス、カンボジアの共産軍のように敵をたえず懲罰してゆくこと、敵をひっぱらだしたたきめをうけた。これは新しい開港分野だ。このたかいのフロンティアを果すのがわれわれなのだ。(談)

あらゆる手段で報復し開港を阻止せよ

北原敏治 反対同盟事務局長



われわれは健在です。たかいたかいた。かならず勝利します。五月六日午前二時三十分岩山団結小屋から機動隊の動きが活発だといふ連絡が入った。しかし、その後、電話線と電線が切断された。二時五十分田警察署長が検証の立合いを要求してきた。鉄塔にかけつけたときには、すでに検証は始められていた。この検証は三時から八時三十五分まで延々と続いた。

かならず、この空港を開港にたいして私たちが何をやってほしいんだということがある。しかも、国家権力そのものが夜討ちをかけてドロボウみだいに他人のものを奪ったのだ。だからわれわれは奪い返していくのだ。かならず、この空港を開港にたいして私たちが何をやってほしいんだということがある。しかも、国家権力そのものが夜討ちをかけてドロボウみだいに他人のものを奪ったのだ。だからわれわれは奪い返していくのだ。

奇襲作戦 一気に緊迫 成田・鉄塔撤去

当局、徹底した隠密行動

台地の陰から抗議の声

横倒しになった大鉄塔にガスバーナーの火花が飛び散り、巨大な三十五トントラックに積み上げるとき、針金に刺さった何百とも知れない「鉄塔共有札」が、鴨子のようにカタカタ鳴った。共有者である反対同盟員や支援学生、労働者の姿は周辺になく、台地の陰から抗議の音がわき上がった。六日、空港公団が突然行った反対派鉄塔撤去の強制執行は一方の当事者が現場にいないという、長い空港反対闘争の歴史のなかでも異例といえる。八面圓のペーパースペルで展開された。「まさかこんなに早く」「しかもいきなり本番とは」。驚いたのは反対派だけでなく、公団職員も現場の警官も同じ。それだけ公団、警備隊の作戦は「冷徹」で「巧妙」だった。三里塚の現地はこの日午後から「鉄塔倒る」を聞いた支援団体の現地入りが続ぎ、夜にかけてケリラ闘争の危機を告げて、これまでには「緊迫感が高まった」。



機動隊めがけて火炎びんを投げる反対派学生
 6日午後4時すぎ、朝日新聞社ヘリコプターから

県警が警戒体制をしいたのは、六日の鉄塔撤去後、東京港区の空港公団役員室、中核派とみられる三人の男が乱入、窓ガラスをメチャメチャに割ったり、空港周辺でも火炎びんが投げられる事件が続発、支援のセクトが過激な行動を強める動きを見せているためだ。鉄塔撤去前までは各支援セクトの行動を反対同盟が統制して、ケリラ行動を抑制していたが、撤去後はその統制を失ったことがもたらした。現場には「原簿はみている」と、警備隊の対策は手裏地獄のほか、地検、県警本部、飯沼分駐隊裁判官官舎、県知事官舎など。このほか、千葉中央、市川、船橋、佐倉など空港を中心とした隣接市も、警備体制で警戒を強めている。また現地集会所が八日予定されているほか、鉄塔撤去を知った文



空港公団総裁室の窓ガラスを打ち壊して街頭に向かって演説をする犯人(左)と逮捕しようと突進する機動隊員—東京・港区の共同通信会館内で

空港公団へ乱入

三人 過激派が撤去に抗議 逮捕

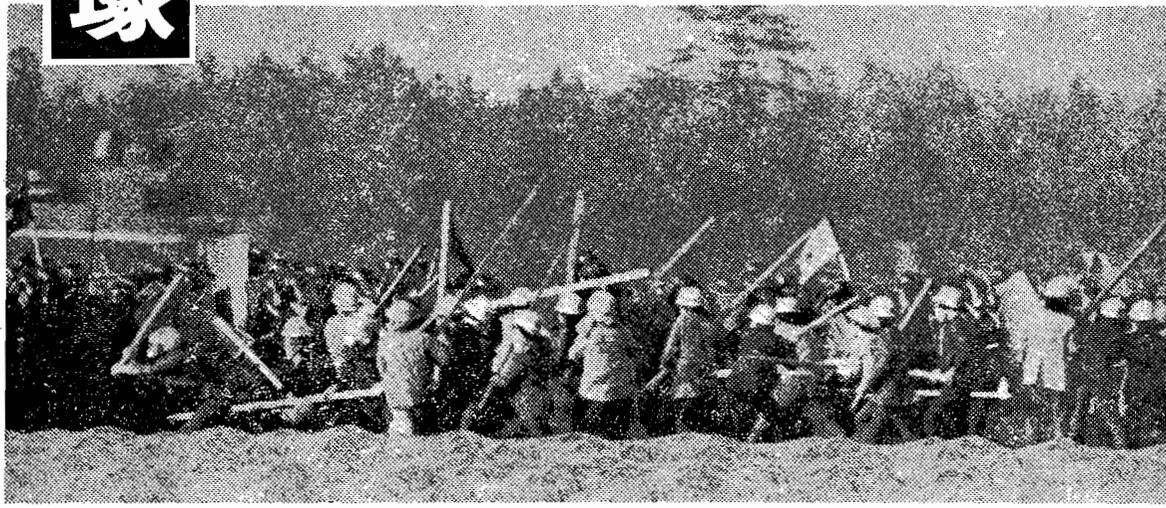
六日午後三時ごろ、東京都港区赤坂彌町一、共同通信会館内にいる新東京国際空港公団に中核派とみられる男三人が乱入、三階の同公団総裁室で鉄パイプを振り回して窓ガラスを割り、メチャメチャに割って暴れた。総裁室の向かいの窓ガラスには大塚茂雄裁判官のサインが、とっさに逃げて無事だった。三人は窓から赤地に白で「中核派」「成田空港粉砕」「鉄塔撤去糾弾」などと呼んだ。警備庁公安部と赤坂署で三人の身元などを調べているが、同日朝の反対派鉄塔強制撤去に対する中核派の抗議行動と断定した。

怒り爆発!!

5・6 日本を揺るがした3日間

「空港」内に突入敢行 滑走路突切り、日航ビルを占拠

三里塚



五十石 火炎ビン、
角材で大激闘
三カ所で怒りの猛攻

空港周辺、夜も騒然

火炎びん飛び、15人逮捕

【成田】成田空港の四千坪滑走路南端にあった反対派の妨害鉄塔二基に対する強制撤去作業は、六日午後六時すぎ解体、搬出を終了した。この結果、同空港は「年内開港」に向けて動き出したが、不意打ち撤去を受けた反対派の三里塚・芝山連合空港反対同盟

反対派の一連のこの抵抗で、空港敷地内の日航貨物ビルの屋上にのぼった男二人など、十五人が逮捕された。

過激派のゲリラ活動に備えた県警本部は、国道二九六号線や成田三里塚十字路など、空港周辺のいたるところで、音検問を続け、車は一台、一台チェック、不審車両はトラックまであける徹底ぶりだった。

赤坂

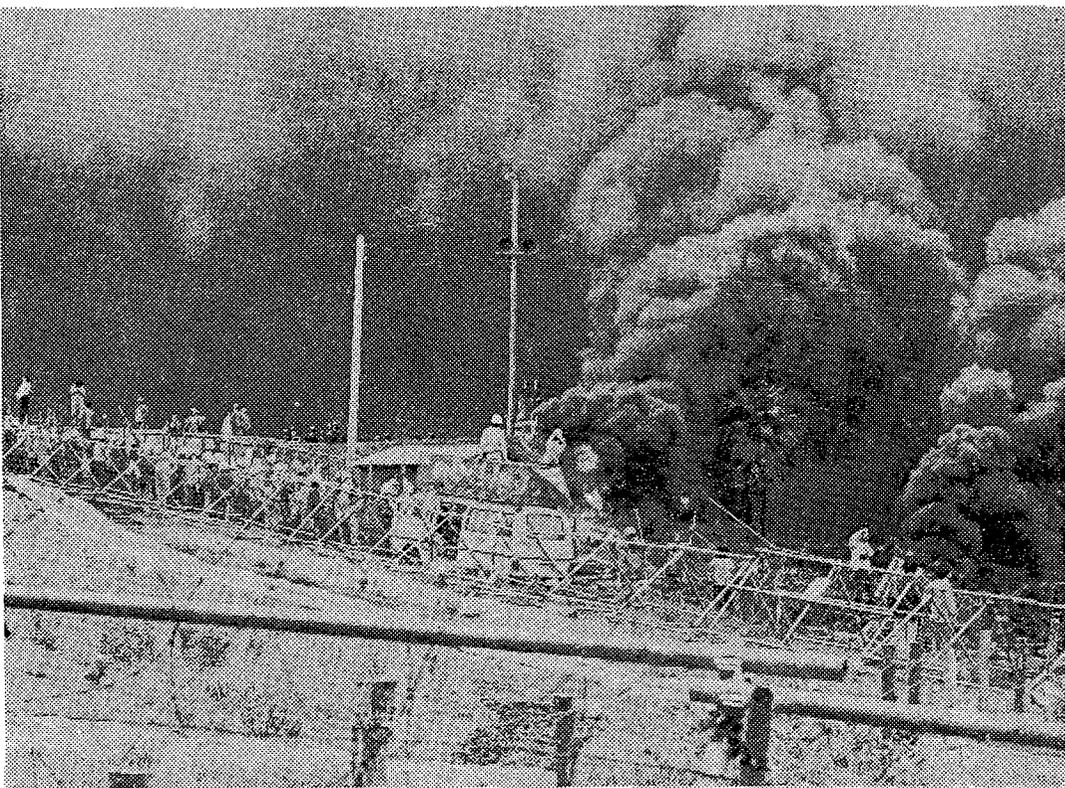


乱入した中核派グループに割られた総裁室の窓ガラス



岩山鉄塔下

機一の中、黒煙と拍手



機影へ誓う『廃港』

機影へ誓う『廃港』

機影へ誓う『廃港』

5.8 千葉日報 ▼

機影へ誓う『廃港』

機影へ誓う『廃港』

機影へ誓う『廃港』

機影へ誓う『廃港』

機影へ誓う『廃港』

鉄塔跡、黒煙で氣勢

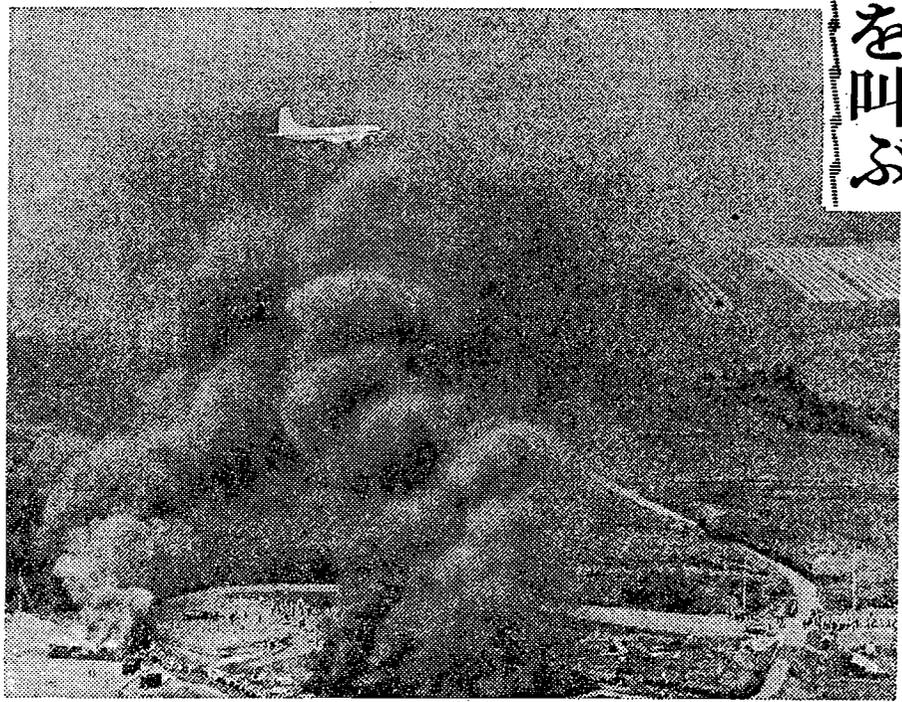
テスト飛行粉砕を叫ぶ

興奮…はしゃぐ 公団職員

興奮…はしゃぐ 公団職員

興奮…はしゃぐ 公団職員

5.8 東京新聞 ▲



反対派が妨害のため燃やした古タイヤの黒煙がたちこめる鉄塔跡上空を飛ぶYS11機

飛行機一試 テスト

地台総北増迫緊

各所でゲリラ活動

反対派 火炎ビンで抵抗

倒された車の鉄骨をむき出しのようになり、旗竿が倒れ、旗がはたき、焼けた土の塊が散らばる。鉄骨撤去が一夜明けた七日の成田空港周辺は、未開から一部破壊の学生が機動隊連射を次々と繰り返すというゲリラ活動の場となった。前日にも同じような騒ぎが繰り返された。泊まり込み組もこの日反対派の手を離す大部隊に押し、各所で機動隊と衝突。午後九時までに二十五人(うち女性四人)が公務執行妨害などで逮捕された。一方、機動隊は五日現地に二機隊を派遣し、七時成田空港準備本部(中村実雄部長)を襲撃。県外から千人の機動隊の応援を受け、機動隊は機動隊を襲撃し、機動隊に突撃した。

空港三施設に火炎びん

撤去から一夜明けた七日朝の火炎びんを投じたのは、約二十時、鉄塔跡地には、八時頃から学生七十人ほどが集まった。トラックで運び込んだ古タイヤをカマリンで燃やした。約二十時、成田空港準備本部の三施設に火炎びんが投げ込まれた。約二十時、成田空港準備本部の三施設に火炎びんが投げ込まれた。約二十時、成田空港準備本部の三施設に火炎びんが投げ込まれた。

同施設には成田空港準備本部のガードマン二人が交代で二十四時間詰めているが、鉄塔撤去が行われた六日朝一人増員し、警備を強化していた。

長谷川さんは「二時すぎ警備保安協会の研修所が襲われたとの情報が入ったので、あるいはと想像していたら、本番になってびっくりした」と話していた。

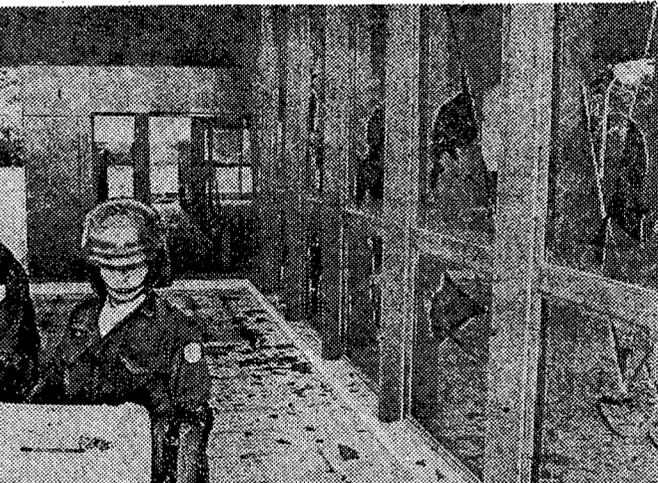
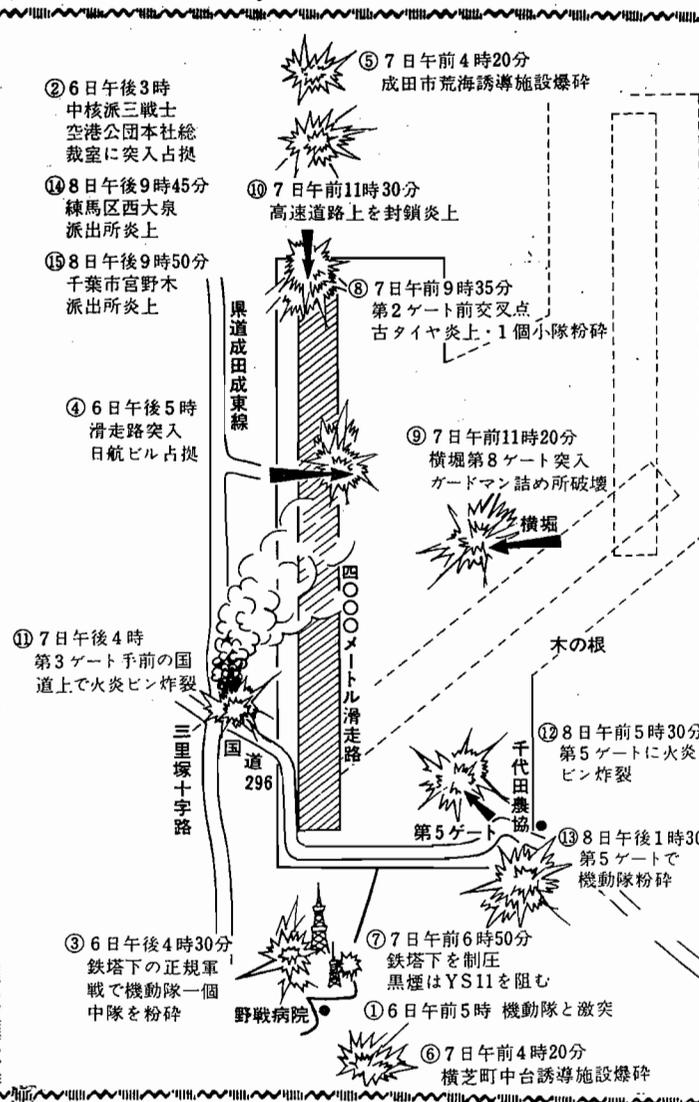
反対派が決めたゲリラ活動活発化の方針にのって七日未明から成田空港周辺では支援セクトの犯行とみられるゲリラ活動が頻発した。着陸する航空機の進入ルート「アウターマーカー」(計器着陸装置)の通過ゲートへの攻撃目標とな

りもするため、警備員も重点警備の一つにあげてはいたが、公道側のガードマン二人が深夜警備に立っているため、機動隊は配備されていなかった。

午前二時十五分ごろ、山形県志村山崎山新田にある航空保安協会成田事務所(岡本正所長)の北側窓ガラス十六枚が割られ、火炎びん一本が投げ込まれた。燃え上がったが空海警備のガードマンが見つけ、消し止めた。同所は空海関係整備員の研修施設。毎川良一氏が会長をつとめる団体である。

午前九時三十分ごろ、空港第二ゲートに向け、学生十数人が火炎びん約三十本を警備の機動隊員に投げつけ、古タイヤを燃やして逃げた。このとき逃げ遅れた男一人を火炎びん法違反の現行犯で逮捕した。

15波の猛攻爆発

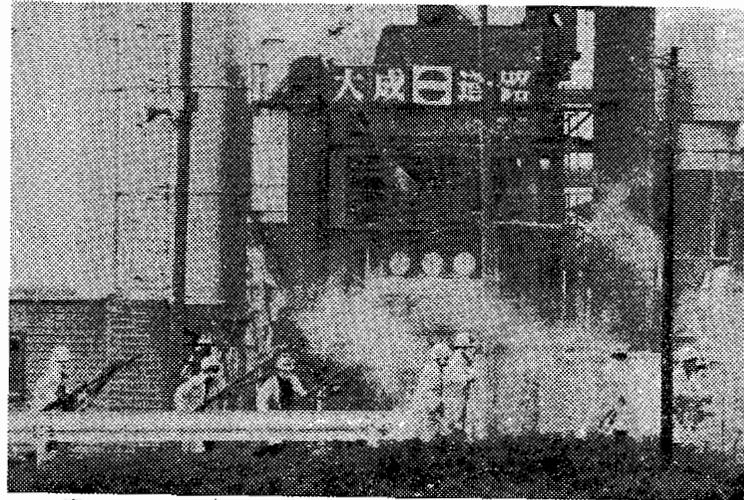


玄関前面のガラスを割られた成田空港の研修センター(けさ7時)

空港周辺、抗議のゲリラ成田



火炎ピンの猛攻で炎上する第2ゲート(7日午前9時35分)



第8ゲート内の諸施設を破壊(7日午前11時20分)



テスト飛行機が破壊された大鉄塔(左上)下でタイヤを燃やして飛行を阻止しようとする学生たち(7日午後11時、千葉県山武郡芝山町で)

479号 1977年 5月8日

敵の卑劣、卑怯なやり口は 全人民的憤激の火に油を注いだ

もう、がまんできない、
 いったいの常識と手続をいかにじった敵権力の卑怯、卑劣なやり口は、
 ち、三里塚に心をよせる全国の闘う人民の腹には煮えくり返っている。
 もはや、われわれは何をやっても構わない。
 去も道理も無視した攻撃には、怒りときびはまった全人民的内戦、階級
 的暴力闘争の必然たる爆発を促さねばならない。
 三里塚闘争は全人民的共感を一層得て、不屈、非妥協、対権力闘争の
 新しい武技的発展の一階梯をいまだ大きく踏み出したのだ。

攻めろ、徹底的に攻めろ、 次ぎ次ぎとあがる怒りの戦果!!

- ① 5月6日午後3時03分
 公団本社(東京)総裁室に三人の戦士突入、徹底破壊、隣室の大家に迫る。
- ② 同 午後4時
 全国2メートルの木材と火炎ピンで武装した百二十人衆過り鉄塔背後から機動隊を襲う。攻撃二十数回、約三〇分、機動隊の片頭部隊完全潰走。
- ③ 同 午後4時
 大清水側から金おびを越えて「空港」に突入した二人、旗竿をたてて滑走路を縦断。日航貨物ターミナル屋上に上り、アジテーション、オロオロする機動隊、5時ほど退却できず。
- ④ 同 午後5時
 大袋付近で機動隊に突入、火炎ピン。
- ⑤ 5月7日午前2時
 「空港保存協会」に火炎ピン、ガラス三十枚割られる。
- ⑥ 同 7日午前4時20分
 成田市荒浜と柳野町中台にある南北のアウターマーカー(誘導施設)に火炎

↑ウラへ↓

日刊三里塚
 77.5.8
 第478号
 全学連
 現地闘争本部
 TEL 0476-501480
 5.15 鉄塔破壊弾劾、三里塚空老粉砕、沖繩基地確係、新芝粉砕
 中核派

① 5月6日 午後3時03分
 公団本社(東京)総裁室に三人の戦士突入、徹底破壊、隣室の大家に迫る。
 ② 同 午後4時
 全国2メートルの木材と火炎ピンで武装した百二十人衆過り鉄塔背後から機動隊を襲う。攻撃二十数回、約三〇分、機動隊の片頭部隊完全潰走。
 ③ 同 午後4時
 大清水側から金おびを越えて「空港」に突入した二人、旗竿をたてて滑走路を縦断。日航貨物ターミナル屋上に上り、アジテーション、オロオロする機動隊、5時ほど退却できず。
 ④ 同 午後5時
 大袋付近で機動隊に突入、火炎ピン。
 ⑤ 5月7日午前2時
 「空港保存協会」に火炎ピン、ガラス三十枚割られる。
 ⑥ 同 7日午前4時20分
 成田市荒浜と柳野町中台にある南北のアウターマーカー(誘導施設)に火炎

幼女の足元にガス弾

庭先に負傷者ゴロゴロ

黒い成田の空が赤い血に染まった。十二日目を迎えた空港反対闘争で、反対派から出た初の犠牲者の面々……。銃撃戦に對する抗議集會が開かれた八日、空港周辺は集會場にあつた山武郡芝山町の山武農協千代田事務所を中心に反対派の火炎ビン、ごぶごぶの石とこれに應戦する機動隊の催涙ガス弾が飛び交ひ、大荒れに荒れた。学生だけでなく、農民、報道陣そして何の関係もないいたけな幼女にまで降りかかるガス弾。血みごたひになつて逃げまどう学生の中で取材しながら記者もまた生まれて初めて死の恐怖を感じた。

(千葉支局・高畑昭男記者、成田支局・今井伸記者)

「スボーン、スボーン」とごぶごぶなりをあけてガス弾が飛んでくる。催涙ガスが目にしみ候かと思ふ。目をさすると、投石のビーン、ビーンと響く音がこぼれ。

「野戦場」と化した空港第五ゲート近くの、いつもなら平和な田舎を学生、機動隊、報道陣の音が文字通り目を真っ赤に血走らせてかきめく。

「弾丸がなくなるまで立ちまくれ」——機動隊指揮官がやはり顔をひきつらして絶叫し続ける。午前十一時すぎ、最初の衝突現場(第五ゲート)近くの農道で、同行のカメラマンが背中からガス弾の直撃を受け、大きな赤いアザを作った。こちらも頭を素手で覆いな

が次々と移る現場を這って、農家の庭先にはわか作りの野戦病院が出現した。次々と運ばれてくる血だらけの負傷者が△シロの上に並べられる。まるで魚市場のマグロのようだが、苦しそうに肩を息をしている。世話役の農家の年寄いた婦人が無理に感情をおさえているのか、無表情のまま毛布を抱えて負傷者の面をまわす。そのお年寄りの顔にはジワリと汗。

機動隊が流追して、衝突の跡には地面いっぱい散らしたガラスの破片や石にまじり、ガス弾をつめてあつた五〇センチ四方の段ボール箱がカラになつてゴロゴロ。ガス弾が撃ち尽くされた付近は、四方にわたって夕方まで異音が立ちこめた。

衝突が収まったあとと原簿のへりが「やむを得ずガス銃を使用しました。住民のみなさんは窓を閉めて戸外に出ないよう注意してください」と広報。近々を通る路線バスの車内でも運転手、車掌が乗客に窓を閉めよう求めた。

周辺の民家のガラス窓も投石でメチャメチャ。ガスで目を真っ赤にした住民は「機動隊のやり方がひどい」と口をささぐる。千代田農協事務所から五十メートル離れた第一衝突現場わきで農機具店を経営する船川留吉さん(五十七)は、長男繁義さん(一七)が集會に出かけようとして外へ出たところ、過激派セクトが乗用車改造の手製装甲車がカレッシュワキに突っ込んで炎上。カレッシュのシャッターや建物の一部を焼いた。

そんな被害にも繁義さんは「学生が遠くから来て石を投げるのは当然だ。ここで衝突が起きるとは思わなかったが、機動隊がこんな場所を規制するのが間違いだ」と怒る。

火を消そうと消防車でかけつけた芝山町消防団、大木富夫第八分団長も「規制のじゃまだと、ジャンルミンの肩で消防車のボディ

をデコボコにされ、消火もできなかった。これから興奮に敵軍抗議する」と顔をこわばらせていた。ガス弾は保育園へ通う幼女の上にも降り注いだ。午後一時すぎには集會場わきで中核派と機動隊が衝突したのをきっかけて機動隊約千人が集會場の三方をピンと囲み約十分間無抵抗状態の学生、農民、住民団体約千五百人へガス弾や水の集中攻撃。記者の耳のそばを「シュルシュル」と音がしたと思つたら、集會場中ほどにいた成田市南三里塚、農業、宮本富さん(五〇)の三女裕佳ちゃん(一〇)の足元にガス弾がさく裂した。

「ワーッワーッ」と火がついたように泣き叫ぶ裕佳ちゃん。幸いケガはなかったが、真っ青の顔は「こわくないよ。大丈夫だよ」裕佳ちゃんを抱きかかえるように飛び出してきた。

「無抵抗じゃないか。やめなさい」機動隊の前へ進み出た片村一作(一七)は「機動隊のやり方がひどい」と怒る。機動隊の背中から「ばかもの。たれが後退して指した」と指指の音が飛び、機動隊員も頭に顔を覆っている。

新空港また血に染め



5/9 朝日



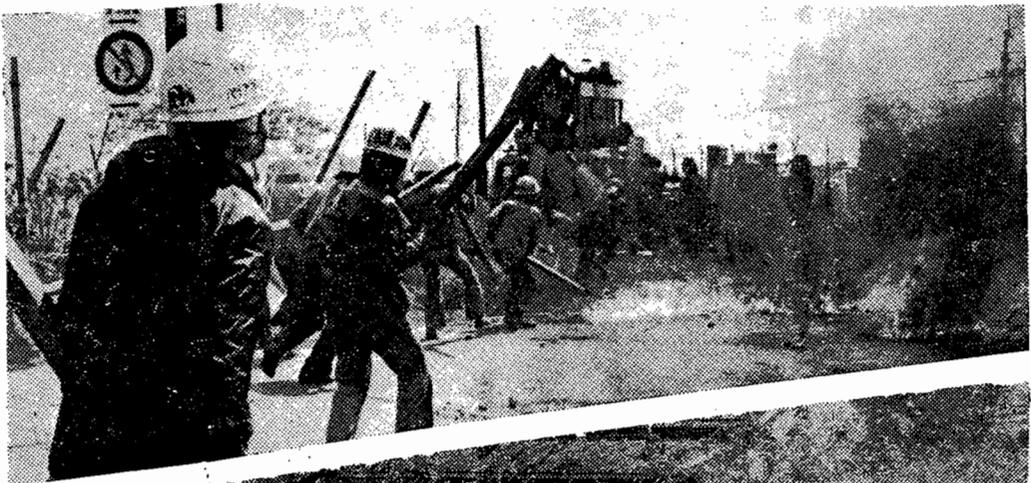
民家へもガス弾飛ぶ

恐怖の抗議 目が痛む!

「鉄塔決戦」は本体の二基の鉄塔が抜き打ち撤去された二百後に流血の最悪事態となった。八日、山武郡芝山町の空港第五ゲートそばで開かれた抗議集会は、過激派学生らの激しいゲリラ行動とこれを力で抑えようとする機動隊との衝突で大荒れ。石と火炎ビンと催涙ガス弾がメチャメチャに飛び交い、静かな農村地帯を、市街戦に巻き込んだ。鉄塔撤去が終わったと思ったら、こんなところで血の雨が降るとは……巻き添えをくった付近住民は口々に恐怖を訴えた。無差別に乱射する機動隊のガス弾は民家にも飛び込み、顔中血だらけの学生が農家に救いを求める。催涙ガスで目を真っ赤にした住民が、重装備の機動隊員につめ寄る場面もあった。反対派、機動隊双方に四百人以上の重軽傷者を出したこの日の抗議集会は、不毛の対決に終わり、憎しみだけをのこらせた。

成田市街戦

悲鳴、怒号……



山武農協前道路で投石する学生 (午後2時10分)

空港を実力粉砕せよ!!

ゲリラ戦突入指令 反対同盟
負傷者を出し残念 理公団



目をこすりマスクをかけて見守る住民(芝山町大里で)

「反対」激化に当局衝撃

会場となった芝山町大里の山武農協千代田支所の広場には、午前七時から空港周辺での泊まり込み組を含め、約二百人が集まり氣勢をあげた。周囲では動員数千人の機動隊が警戒、国道わきの草むらに入り込み、火炎ビンなどの捜索をする一方、会場に来る学生らを一人一人取り囲み、嚴重な手エツクを続けた。
九時過ぎには反対同盟から、集まった学生らに握り飯の差し入れもあり、刻々と数がふくれ上がった。
会場近くの住民らは「狭いところで大丈夫かな。機動隊はすごい勢だが……」と衝突を心配し、自輦車で通りかかった農家は、学生を民家の底先に押し込んで小窓をながら検閲する機動隊に向かい「そんなにするとなかんべよ」と大声でなぐっていた。
周辺を通る車両はすべて一台一台厳しくチェックされた。
同九時五十分、第五ゲート前を通る中の国鉄路線バス(成田発八日市行き)は、検閲のため機動隊に取り囲まれ停車させられたが、車内は超満員で機動隊も乗り込めず、約三十分「車外に出ろ」「出ない」の押し問答。
林毅運転手、布施英明車掌の二人が降り、機動隊にかけ合うものの子があかす、そのうち車内からモーニング姿の中年の男客が真っ青な顔で飛び出し、「結核式に間に合わない」。林毅運転手は「二回三回の検閲を受けた。ダイヤはメチャメチャだ」と嘆く。

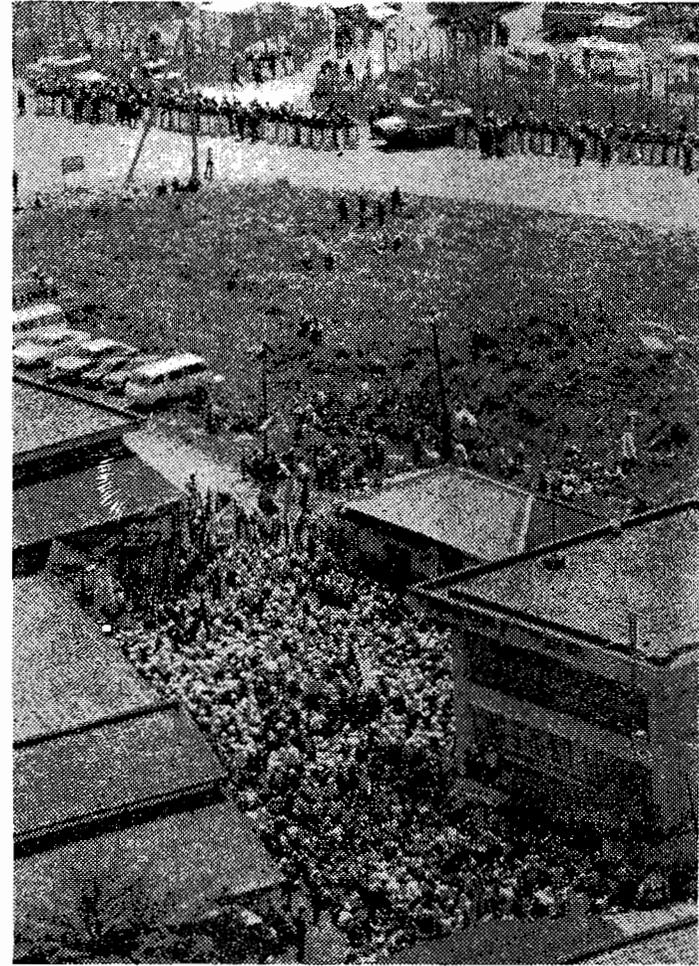
見た！ 感じた！ 恐怖のナリタ

ガス弾直撃 東山さん死ぬ

400人ケガ

問題残す 過剰警備

「機動隊は、銃部隊を先頭に立てていた。デモ隊員を殺すつもりだ」と、過剰警備を糾弾した。



成田空港反対派の抗議集会（手前）と空港第5ゲート付近の警備を固める機動隊＝千葉県山武郡芝山町の山武農協千代田支部前で



庭先で至近距離から延焼をつける機動隊員

ガス弾を水平撃ち 戸村委員長

【成田】戸村一作空港反対同盟委員長は、午後四時半から成田市の日赤成田病院で記者会見し、「機動隊は、銃部隊を先頭に立てていた。デモ隊員を殺すつもりだ」と、過剰警備を糾弾した。

戸村委員長の話によれば、ガス弾で襲われた危険状態になった東山さん（47歳）は、背後から水平撃ちされたガス弾が後頭部に当たり倒れた。仲間が助け起したが、血まみれで虫の息を吐き出した。周囲は混乱し、仲間の数人、スラムを組んで退却した。第四インターの学生らを追いかける機動隊が国道296号線から進入するのを阻止していた。この時、裏の畑から機動隊員が現れたので振り向いた途端、三四発のガス弾が水平撃ちされた。次に撃ち込まれたという。



発射されたガス弾

5/9 毎日新聞



【成田】千葉警察の中村英雄本部長は、記者会見し、反対派に重傷者が多数出たことについて確認したが、あまたの手紙の毒だ」といながらも、「二連の反対派学生は、機動隊に銃撃を仕掛けてきた。機動隊は、催涙弾や水弾を使って警備に当たったのは、当然だ」と述べた。

重傷者については病院に搬送された。このため警察官にも多数の負傷者が出ている。ガス弾の水平打ちは好ましくない。とほいが、正当防衛として認められており、やむを得ない措置だ。しかし、反対派のいっしょにガスの入っていない機動隊を使うことは、事実上は、違法だ。

警職法発動は当然 千葉県警本部長

▼ 77.5.13 毎日新聞

新シンボル "不倒の塔"

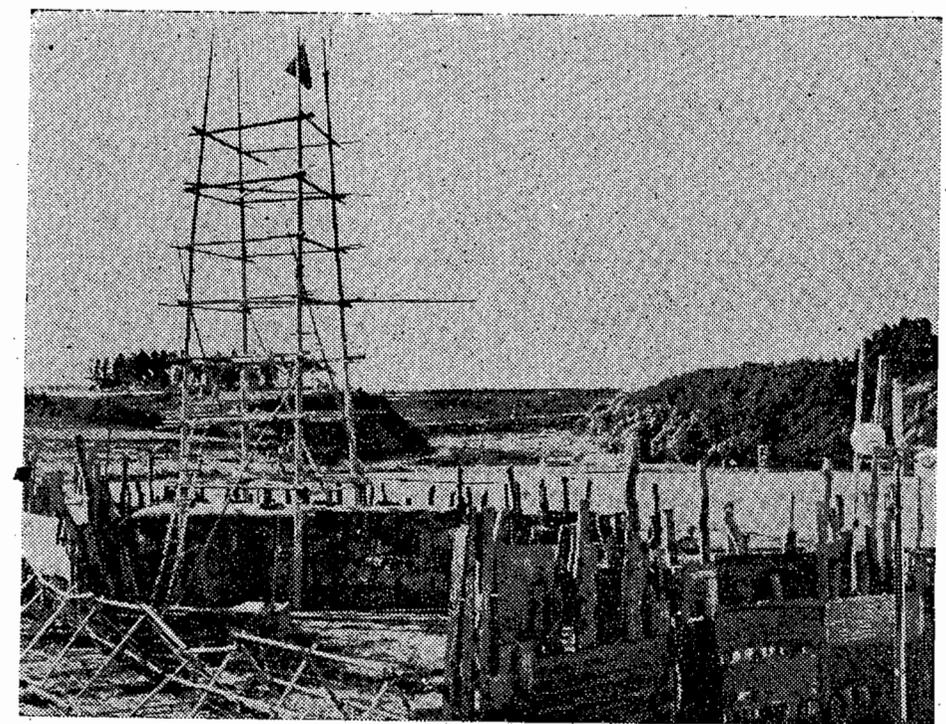
反対同盟また建設

成田開港に反対している三重・塚・芝山連合会連日反対同盟は、六日に撤去された大鉄塔跡地に新たな「闘争の拠点」として木製の大ヤグラの建設を八日後から始めた。高さは千数尺。航空機離陸の安全のための進入表面に侵入しない範囲内の合法闘争といふ。

鉄塔の跡地は、もともと反対同盟の所有地。反対派学生が約七千人は、この日午前十時すぎ、山形都芝山町朝倉から長崎約二十キロの大約四、五千人をトラックや学生らの手で現場に集めた。午後二時すぎから建設に着手した。一週日中に高さ約二十メートルの大ヤグラを完成する見込み。ヤグラ下部には「闘争の拠点」として、

作業は正午から開始。青年行動隊員は「反対同盟の闘争の拠点」として「JAM、フロンティア」への抗議の意味で建設する。このヤグラは、攻撃の拠点で、当面は合法的なヤグラとして権力側の出方を見たいと云う。

▲ 77.5.9 朝日新聞

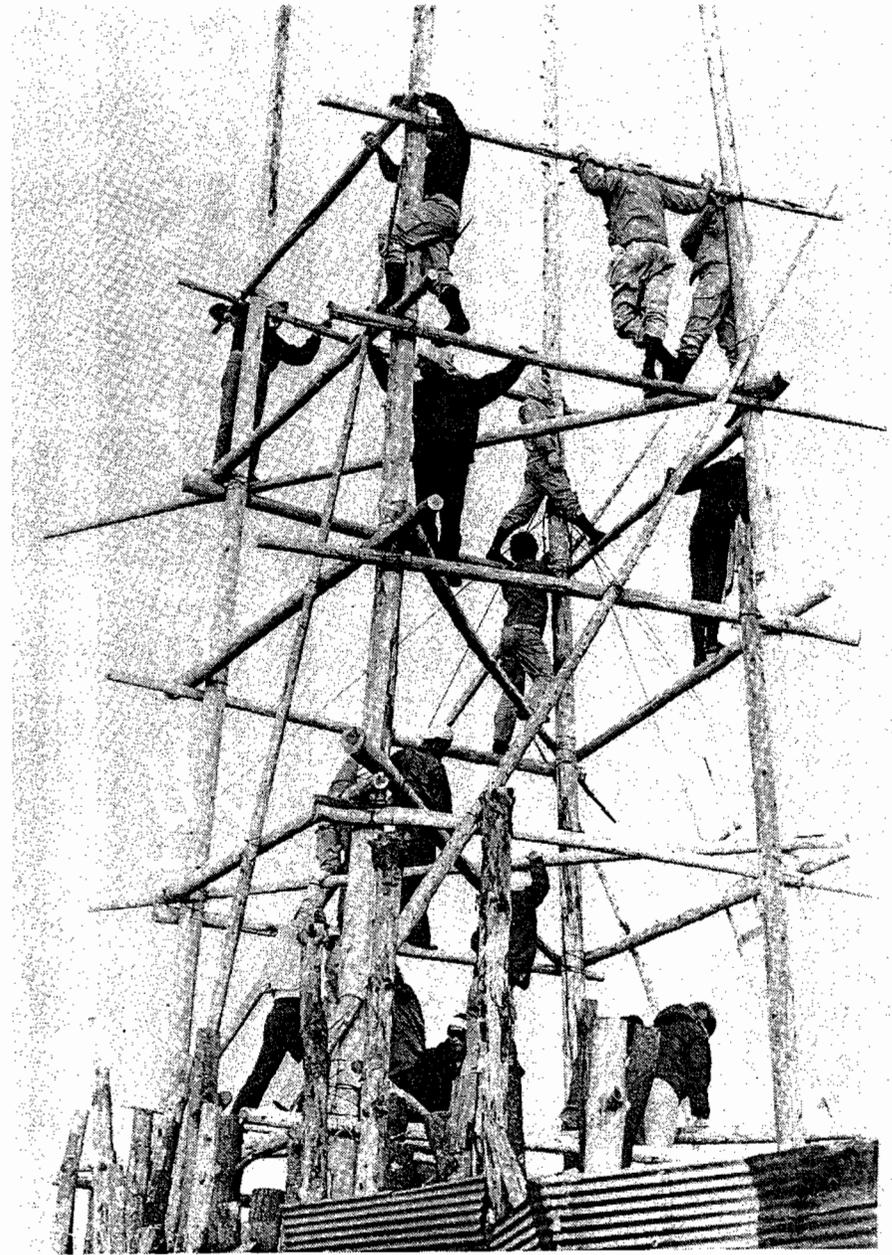


◀ 77.5.12 読売新聞

鉄塔跡にヤグラ

「丸太だけの粗細工だが…絶対に死守」

不屈の同盟



戦闘化する同盟
このところ、反対同盟の戦闘化、活性化はものすごい。かつての少年行動隊も、東京などから次々につけてきた。不屈の反対同盟を「ついで」を、しみみ実感させられる。八日、すぐさま大鉄塔跡地に建てられた二十メートルの高さ、そのひとつの象徴である。

闘争的鉄塔破壊に怒りを燃やし、8日午後 同じ場所に新たなヤグラが構築された。

東山薫氏虐殺を弾劾する

五月八日、救済活動中に機動隊による至近距離からの憎むべき方又銃の水平うちをうけ、危篤におちいついた東山薫氏(三七)は、十日午後十時十四分、五十数時間にわたる生へのたたかきもむなく成田日赤病院で息をひきとった。



東山薫氏

東山薫氏略歴

一九四九年六月七日、高知県に生まれる。大阪府立高津高校で一年生のときから闘争に参加。一浪後、六九年四月、都立大に入學する。都立大全共闘にくわり、ノンセクトで活動。七二年二月、三里塚第一次代執行阻止闘争をたた

われわれは、追いつめられた権力者の明白な殺人のための殺人弾を断じて許すことはできない。満身の怒りをこめて、日帝・政府公団、権力機動隊への復讐を決意し、宣言するものである。

坂幸岡団結小屋(芝山町大里坂)の中心的活動家であった東山薫氏は、七二年二月、三里塚の地において、三里塚反対同盟と生活闘争をともにしてきた貴重な活動家であった。東山氏は、五月八日のこの日、救済活動にすそわっていたのである。午前十一時十五分ごろ、東山氏は千代田機動隊による至近距離からのガス弾直撃で事実上即死させられた。

病院で活動中、機動隊が野戦病院に乱入しようとしたため、入口に他の四人の仲間とともにスクラムを組んで機動隊と対峙したそのとき、野戦病院の裏手からも機動隊が乱入してきたので、東山氏は後をふりかえった。その瞬間、前にいた機動隊が三村とつゝ至近距離から、ヘルメットをかぶっていた東山薫氏の右後頭頂部を狙ってガス銃を発射したのである。

その場に転倒した東山氏は、開放性脳損傷、脳挫傷で脳死状態におちいったのであった。東山氏は、たまたま全人民の怒りの猛反撃をうけ、絶対的な危機を深めてしまったのだ。

このことに根柢から危機感と恐怖をつらせた権力は、ただただ無差別的なガス銃の水平撃ちによってたたかいたの激発を鎮圧するにこころをなしたもので、敵権力は、このあまりにも理不尽な殺人行爲を「正当防衛」だなど公然とひらきながら、はたまた強硬なゲリラ戦、百万人大動員

警察庁長官らに告訴

東山さんの両親 殺人と陵虐致死で

被疑者(被告人)の表示

- 一、警察庁長官 浅沼清太郎
- 二、関東管区警察局長 勝田俊男
- 三、千葉県警本部長 中村安雄
- 四、千葉県警本部 山県参事官
- 五、警察官 氏名不詳者(昭和五二年五月八日午前十一時一五分頃山武郡芝山町大里七〇番地先国道二九六号線道路上に出動した千葉県警察もしくは兵庫警察所所属機動隊員たるガス銃射撃手以下単に警察官氏名不詳者と称す)

被疑事実

被疑者浅沼清太郎は、警察庁長官として、警察法一六条二項により警察庁の所掌事務である警備警察に關し千葉県警察を指揮監督する職務を行っていたものであり、同勝田俊男は、関東管区警察局長として、同法三一条一項により関東管区警察局長の所掌事務について茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、神奈川、新潟、山梨、長野、静岡各県警察を指揮監督する職務を行っていたものであり、同中村安雄は、千葉県警察本部長として、山県参事官は現場指揮者として、警察官氏名不詳者は、催涙ガス銃部隊員として、新東京国際空港公団(総裁大塚茂)が昭和五二年五月六日行なった同県山武郡芝山町所在の岩山大鉄塔、小鉄塔除去の抜き打ち仮処分執行後の事態に備えるため警備実施の職務を行っていたものである。

被疑者中村安雄、同山県某は、同浅沼清太郎、同勝田俊男の承認

のもとに、同人らと共に謀のうえ、三里塚空港建設反対の農民、学生、労働者、市民に対し、大楯、小楯、警棒、ヘルメット、出動服着用完全装備の機動隊員、放水銃、ガス銃によって徹底的に弾圧せんば人を殺傷する能力があることを認識し、かつ、至近距離で水平発射した場合死者が発生することを予見しながら、あえて、警察官職務執行法七条の事由の有無を顧慮せず、催涙ガス銃を水平発射するより同人指揮下の警察官多数に指示し、多数の警察官と共に謀のうえ、前記被疑者氏名不詳者において、前同日午前十一時一五分ごろ、同県山武郡芝山町大里七〇番地先路上において、折から警察官の違法過剰警備による負傷者の救護の任に当たっていた東山薫(当二七年)が、前同番地齊藤晴方邸宅入口付近にて警察官の救護所への乱入を阻止すべくスクラムを組んでいたところ、もし、同人の頭部にガス弾が命中したときは死の結果を惹起することを予見しながら、あえて、約五メートルの至近距離から同人の右後頭部目がけて催涙ガス銃を水平発射し、催涙ガス弾を同人の右後頭に命中させる暴行を加え、よって、同人に対し、右後頭部頭蓋骨陥没骨折、脳挫傷および開放性脳損傷の傷害を負わせ、即時同所において意識不明の状態に陥入れ、前同月一〇日午後一〇時一四分、成田市飯田町九〇番地一成田赤十字病院において、死亡させ、もって、殺害したものである。

罪名および罰条

特別公務員暴行陵虐致死 殺人
刑法一九五条一項、一九六条、一九九条、六〇条

夜間襲撃、に備えて全照明をつけた成田新空港夜景

力の開港の行く手に うず巻く憎悪



ゲリラ激化へ進む成田闘争

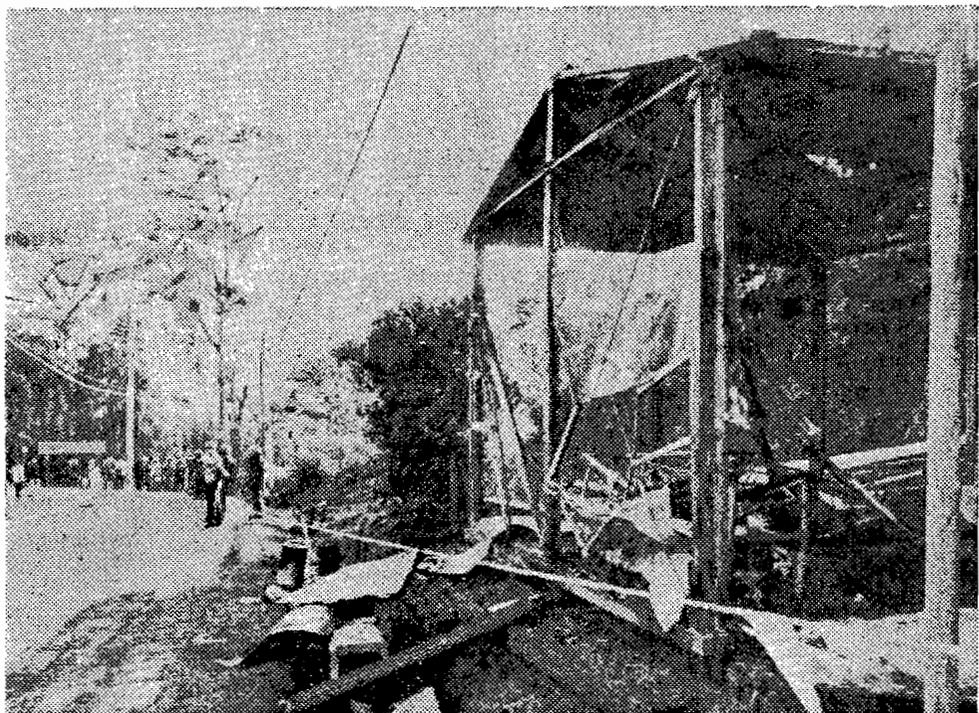
不気味な予言

『三里塚は暴動化』

成田闘争
裁判結審
戸村委員長が最終陳述

「このあ、午後二時十分から戸村委員長が証言を始めて、最後は意見陳述をした。戸村委員長は「平和の道が田園に、突如内陸部海を決定し、農民を締め出し、巨大開発を押し進め、独自資本に奪われ、農民を貧窮労働者に転落させた」という内容で陳述を始めた。農民を苦しめるのには、決して許さないと主張した。戸村委員長は、農民を貧窮労働者に転落させたのには、決して許さないと主張した。戸村委員長は、農民を貧窮労働者に転落させたのには、決して許さないと主張した。戸村委員長は、農民を貧窮労働者に転落させたのには、決して許さないと主張した。

「サシヤボソッヘリ」警察団体が三里塚に出現している。五・八集会では非武装の集会場にガス弾を撃ち込み、六つの子が恐怖に陥っていた。そのあと、女性の子どもが殺された。これはほんの一例であり、これが暴力でなくてはならない。これを激しく、手を振り上げながら裁判長に訴えた。また、仮処分申請に対しては「政府、司法、公団三位一体となった暗黒政治の象徴である、鉄塔の引っこかかる部分だけを取り除いてくれ」という考えを述べてきた。



過激派の水炎ビン焼き打ちを受け、焼失した山武郡芝山町の派出所

いぜん不気味な緊迫 成田

= 三里塚斗争の大爆発に恐怖し =

敵対するカクマル!

カクマル機関紙「解放」458号(3/21付)▶

「解放」462号▶

カクマルの旗

1977年4月1号

法大解放青年委員会

連絡先 (03) 470-1101

法大の中心を握るカクマルの旗

三里塚・町田の闘争を支持する

カクマルの旗を掲げよう

カクマルの旗を掲げよう

▲ 法政大に置かれていたカクマルのピラ!!

本年初頭に政府は、三里塚闘争の激化を背景として、成田新国際空港の年内開港を断念し、移設した。戸村は、この移設案をめぐって、一月、二月に空海公園の力を遣い、散去する。散去開始は、三月三日、四日に公開演説の場で行った。

「警察が悪いわけではない」(一)

「三里塚闘争はすでに勝利した」 危機を隠蔽する戸村一作

「勝利」の証左をあげよう。この勝利は、明らかに、この闘争の勝利である。勝利の証左をあげよう。この勝利は、明らかに、この闘争の勝利である。勝利の証左をあげよう。この勝利は、明らかに、この闘争の勝利である。

馬脚をあらわしたブクロ派

「成田空港早期開港」で権力・公団・戸村一作・ブクロ派が合意

権力からの見返りは、鉄塔撤去で一花さかす、こと

法大解放青年委員会

連絡先 (03) 470-1101

五月六日午前十一時に三里塚闘争の「最後の激戦」とまで言われた岩山大鉄塔は倒され、撤去された。だがこの空襲公団と千葉県警による撤去作業はなんらの抵抗らしい抵抗をもうけず午前八時三十分から二時間半で終了したのである。いや、抵抗がなかったというばかりではな

「鉄塔決戦」はなぜ消え去ったのか? 仕組まれた箱庭的「武装闘争」

戸村・北原・ブクロ派に「鉄塔撤去の見返りにひと花さかさせる」と花さかさせる



▲ 「解放」466号 (5月16日付)

成田開港まで「宿題」山積み

心もとない都心までの足

六日に行われた成田空港反対派のシンポジウムで、成田空港の半開港への見通しは明るくなった。しかし、まだ未だ問題は多い。とりわけ気にかかっているのが、旅客、空港関係者を占めて日約三万四千人(片道)が利用する東京成田線(成田線)の足。いわゆる「成田線」の問題で、種々の京成電鉄は「現在の計画がほぼ最高限度」として、一般車やトラックに加えバス、タクシーまで乗客を乗せる京成道路は「ラッシュ時には乗客を乗せられない」として「バス専用線」を建設し、成田新幹線の建設がいつの間にかわかたなければならぬ不安は残る。間に合わせの開港では、国際空港として十分なサービスを果たすことができない。

計算上はたいじょうぶ

鉄橋撤去で、年内開港の見通しはついたとしても、成田から都心(約六六)までの足、は大丈夫か。

運輸省航空局のシミュレーションでは、燃料費定率期間中は、旅客、空港関係従業員、一般見学者を含め、一日三万四千人(片道)を運ぶ六万八千人の足を運ぶ必要があるのである。

これをレールでは京成電鉄と国鉄成田線、道路では東京成田線(高速バス、タクシー、ハイヤー)などで分散して運ぶという計画。「計算上はなんとかなる」というが、成田新幹線にかかわる計画がないため、当面の抜け穴はほとんどない。しかも、各種設備とも未解決の難題を多く抱え、計算通りにはいかずかわらぬというところも、おぼろしい状態だ。

「これ以上期待されても」「特高車面まで七、八年、八が完成して四年半、待たなければならぬ」といふのが、反対派の主張だ。

それには、京成空港線と旅客ターミナルは「二・二」も離れている。この間はバス輸送するが、国際旅客にとっては、わずらわしい話。国際空港としては、あまり自慢にならない、乗り継ぎだ。

計算上はたいじょうぶ

成田線の建設に「三億円以上を」費やした京成電鉄の本係副社長は、この日の、撤去の懸念を、こぼした。

しかし、開港時のラッシュについては「先見込んである輸送力以上のことを期待しては困る。あくまで、開港してお考えいただきたい」と、表情を曇らせた。

上野-空港間の京成電鉄は、一日にスカイライナー(上野-空港間)一時間(二十七本、特急)同一時間十五分(二十二本、急行)同一時間三十五分(三十三本)など、計九十二本で往復五万人運ぶことになる。

超ラッシュに備えない

レールで足りない分を道路で、はたして運ぶことになる。なにしろ、朝の東武東上線と京葉道路(首都高速)の二本、スカイライナーでも二時間半以上、ラッシュにかかれば二時間半はかかる。

スカイライナー1人1人 限度

—京成の2万5千人輸送計画—
メドため 京葉道路も満パイ 成田新幹線

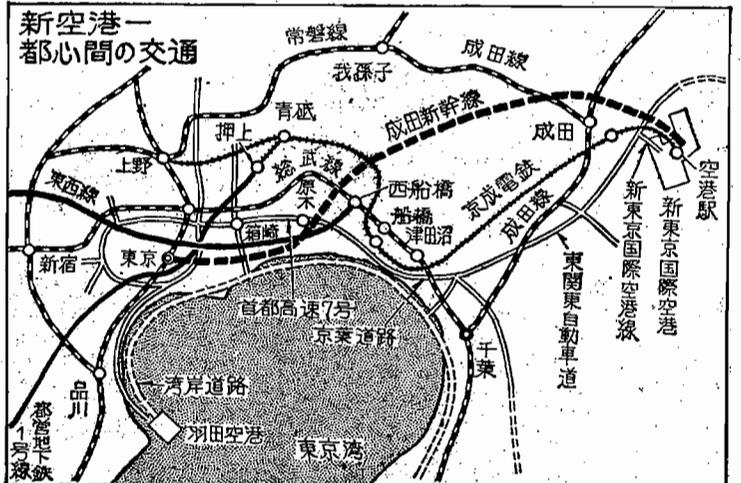
解決できない問題

旅客ターミナルに「二・二」も離れていて、国際空港としては、あまり自慢にならない、乗り継ぎだ。しかも、各種設備とも未解決の難題を多く抱え、計算通りにはいかずかわらぬというところも、おぼろしい状態だ。

「これ以上期待されても」「特高車面まで七、八年、八が完成して四年半、待たなければならぬ」といふのが、反対派の主張だ。

外国には例のない遠さ 都心-空港66キロ

都心から成田空港までの距離、六六。いったい、こんな遠い距離を、外国には例のない遠さ。しかも、外国には例のない遠さ。しかも、外国には例のない遠さ。



千葉版

ニュースや写真の提供は
千葉支局
千葉市中央 4-14-9
郵便番号 280
電 4151 (代)
電 0089
通信局・部
電 1288
電 6795
電 1135
電 3983
電 1600
電 2395
電 0937
電 6660
館市船松成銀木更柏

鉄塔死守へ空前の1万人集会

「全国からの闘争仲間をこれほど迎えたことは、なんという誇りでしょうか」4・17集会の演壇に立った戸村一作反同盟委員長が、段々高を張った。会場の三里塚第一公園を埋め尽くした二万二千七百五十人(県警調べ)・主催者発表は二万三千三百六十人の参加者。十一年間続いた三里塚闘争の中でも、「これだけ多くの人が参加した集会、デモは例がない。しかも市民団体や労働運動組織などセクトには無関係な市民たちが初めて新労連系の支援学生の数を上回った。『鉄塔決戦』を前に、この日の三里塚は大きな喜びの渦を巻き起こっていた。

この力で勝利を...

戸村委員長 闘争の拡大を呼びかけ



会場を埋めつくして開かれた総決起集会—三里塚第一公園で

鉄塔撤去仮処分の申請を間近にひかえ、4・17成田集会は、緊迫した空気を醸成された。集会が始まる四時間前から支援学生らが繰り込み、正午過ぎには二万人を越す反対同盟員、学生、市民団体代表らが広い会場を埋めつくした。午後零時三十分、石塚副委員長、副委員長が開会宣言。副委員長は「年内開港という命令を受け、公団は鉄塔を撤去しようとしている。反対同盟の命運をかけた。鉄塔決戦を闘い抜かなければならない。二期工事区域に土地を保持している二二三戸の農家は、一坪も土地を売り渡さない。最後までがんばろう」と、闘争宣言を高らかに叫ぶ。戸村一作委員長は「今月下旬から来月上旬、仮処分が出されるだろう。全国一闘いを広げ、成田にいる機動隊を各地に引きつけ、成田の闘いに連携してほしい」と、闘争の拡大を要請した。「この日、各支援団体が次々にアピールシエント燃料の輸送に反対している。成田基地は二二三百人の組合員が一丸となって団結

を強化し、ストを含む手段で燃料輸送反対を闘い抜く」とあいさつした。仮処分申請紛争や燃料輸送阻止を大会スローガンとして採択し、五月二十九日に再び仮処分紛争集会を三里塚で開くことを決め、午後三時三十分、集会を終わりに移った。

成田、最大の集会

沖繩の教訓にしたい

「沖繩反戦地主の会」事務局長 平安 常次さん

目立った市民

来月29日

再び

同明

最大規模の

連帯の旗波揺る

主催者発表
二万三千人
警備本部調べ
一万一千七百人

再び高揚期到来



国労、動労が共闘へ

シエツト燃料の輸送に反対

成田新空港のシエツト燃料貨車輸送反対運動で、千葉中央労働組合連合会（千葉中労連）と、千葉市労働組合連合会（千葉市労連）が初めて共闘体制を組むことになった。二十六日、両地本青年部主催の「シエツト燃料貨車輸送反対・合理化攻撃青年労働者総決起集会」が千葉市の自治会館で開かれた。参加したのは、空港反対同盟実行部、県労連はじめ「成田の平和を守る市民の会」「三里塚空港「廃港」要求宣言の会」など、協賛団体を含め五十団体五百人（主催者発表）が参加した。集会には三百八十人。シエツト燃料貨車輸送計画は、本格ハイライン建設が行き詰まった四十七年夏ごろ、代替案として表面化した。動労千葉地本が直ちに計画反対を表明したのに対し、国労側は組織的な取り組み方をまどめていなかっただけで、かつ政府、公団側が「十一月開港」を表明、鉄塔撤去が間近に予想される情勢となったため強力なバックアップを組織することに決めた。あいさつに立った中野洋・動労

千葉地本書記長は「いまや、国労の全労働者が一致団結して貨車輸送計画を事実上阻止し、空港そのものを廃港に追い込もう」と決意を表明、三月下旬に、春闘から始めた実行（スト）に踏み切る予定を明らかにした。

▲ '77.2.27 毎日新聞

◀ 3.11 東京新聞

組織あげ輸送阻止

動労、反対大集会で確認

成田新空港への燃料貨車輸送に反対する動労千葉地本（関川幸委員長・組合員三百人）は十日夜、千葉市民会館ホールで反対大集会を開き、国鉄当局が燃料輸送を強行すれば、同地本の組織をあげて阻止する意向を確認した。動労千葉地本が阻止体制を固めたことにより、成田新空港の開港はまたひとつ現場で波乱をよみがえらせた。

同地本は十年前から成田新空港に反対し、空港反対同盟と共闘を続けている。この初め、国と空港公社が十一月開港を目標とする動きをほころびさせると、次に支部委員局長会議や青年部会議を開いて燃料輸送阻止体制を固めてきた。

集会は午後六時すぎ開き、動労組合員のほか三里塚・芝山空港反対同盟の農民たちが積極的に国労、全

記長は激励に答へ、「三里塚の農民に連帯して住民と乗務員の生命を守り労働強化に反対するため組織をあげて闘い抜く」と決意を表明した。同地本が燃料輸送に反対しているのは労働強化が原因だ。同地本の話だと、燃料輸送には約三千人の乗務員が必要だが、千葉鉄道管理局は増員計画を示していない。乗務員の養成は通算一年かかると、年内開港を目指せば、現人員で燃料輸送をするより仕方なくなるという。



農婦たちが最前列に並んで開港阻止へ氣勢上げる—千葉市民会館で

シエツト燃料輸送工事

着工すればスト

動労千葉地本指令

成田新空港に停るシエツト燃料貨車輸送に反対している国鉄動力車労働組合地本（関川幸委員長）は、十三日の中央委員会の決定を受けて十四日、当局が輸送設備整備（着工）した場合、直ちにストを含む「削減運送」の闘争に入るよう指示した。また、十三日、総武線で起きた事故に抗議するため、十五日から一部区間で速度規制を実施する。

一方、十三日午前、総武線で起きたバッテリーホック落下事故は「線路・路盤が悪いための異常に大きな振動が原因」として、十五日午前零時から同線新検見川—西千葉駅間で速度ダウンを実施する。

▲5.15 千葉日報

三里塚空港シエツト燃料輸送実力阻止 断て、断て運ぶもの

1976-8-17 NO.23

青年部期書會入結果

（一）青年部期書會入結果

（二）青年部期書會入結果

（三）青年部期書會入結果

（四）青年部期書會入結果

（五）青年部期書會入結果

（六）青年部期書會入結果

（七）青年部期書會入結果

（八）青年部期書會入結果

（九）青年部期書會入結果

（十）青年部期書會入結果

（十一）青年部期書會入結果

（十二）青年部期書會入結果

（十三）青年部期書會入結果

（十四）青年部期書會入結果

（十五）青年部期書會入結果

（十六）青年部期書會入結果

（十七）青年部期書會入結果

（十八）青年部期書會入結果

（十九）青年部期書會入結果

（二十）青年部期書會入結果

シエツト燃料貨車輸送を阻止する 動労が千葉

同地本によると千葉ルートでの輸送は総武線養老駅で折り返しになり、そのための設備建設が今月下旬に着手されると千葉、工事が強行された場合、抗議として全国指令より強力な「削減運送」非暴力千葉管内十一機関・運輸区での拠点ストに突入する。

5・15 沖縄と三里塚を結ぶ



5・15、1万5千余の大結集かちとる

5・15は、人民共闘の大成功で沖縄—三里塚闘争の巨大な橋頭堡を築いた (代々木公園)

沖縄基地確保新法粉砕、
鉄塔破壊・東山君虐殺抗議 三里塚空港粉砕

沖縄と三里塚をむすぶ

5・15中央大集会のよびかけ文

沖縄反戦地主会
三里塚芝山連合空港反対同盟

沖縄反戦地主会と三里塚芝山連合空港反対同盟は、来る五月十五日、沖縄基地確保新法粉砕、鉄塔破壊・東山君虐殺抗議、三里塚空港粉砕、沖縄と三里塚をむすぶ5・15中央大集会を共催する(これを決定し、ここに全人民によびかけます。沖縄基地確保新法の制定がほぼ絶望的となった政府・自民党は、現行沖縄公用地暫定使用法の期限切れを目前に、その再延長をはかること必死に策動を強めています。だが、ついに策動は、沖縄百万農民の基地撤去の闘いを頭からつぶすに、朝鮮危機を背景に沖縄を日本の軍事的出撃拠点として、ますます戦場の島と化さそうとするものであり、沖縄反戦地主会を始めとする多くの人びとの怒りを一層強めつつあります。一方、政府・自民党の開港計画にもかかわらず、すでに二年、三里塚農民の自力闘争は、ジェット燃料輸送阻止闘争、ストライキ闘争、さきの四・一七闘争では画期的な成功をおさめました。追いつめられた政府・公団は警察権力・千葉地裁と一体となり五月六日朝、やみ討ち的な鉄塔破壊を強行するとともに、八日には現地支援の東山君を虐殺するなどの暴挙の限りをつくっています。現地農民と全国の支援連帯闘争はいまや空前の情熱をもって総反撃に立上りつつあります。

この沖縄・三里塚の二つの闘いは、はたは茨山の闘いととも、日本帝国主義と対決する労働者人民の未来を左右する決定的課題といわれはなりません。

六度び五月十五日をかえるにあたり、闘う沖縄農民と本土の闘う労働者人民の総決起がいまほど必要とされているときはありません。

ここに三里塚芝山連合空港反対同盟と沖縄反戦地主会は、すべての闘かう労働者人民が合流し、この中央大集会に総決起されることを心から訴えます。

- 一、集名
 沖縄基地確保新法粉砕、鉄塔破壊・東山君虐殺抗議
 ・三里塚空港粉砕、沖縄と三里塚をむすぶ5・15中央大集会
- 二、日時
 五月十五日(正午)
- 三、場所
 東京・代々木公園(国電原宿下車)

よびかけへの賛同者(あいうえお順)

- 青地 慶(日韓連帯連絡会議代表)
 荒畑 寒村(社会運動家)
 市川 誠(前総評議長)
 宇井 純(自主講座・CTS問題を守る会代表世話人)
 神山政良(東京沖縄県人会名誉会長)
 川本輝夫(水俣病患者連帯委員長)
 佐多 穂子(婦人民主クラブ議長)
- 西岡 智(部落解放同盟茨山中央闘争委員会事務局局長)
 西村 幸司(三菱長崎造船労働組合委員長、むつ丸船・原船阻止・原子力と対決する九州会議世話人)
 野間 宏(差別とたたかう文化会議議長)
- 羽仁 五郎(歴史学者)
 日高 六郎(国民文化会議代表)
 宮岡 政雄(砂川基地拡張反対同盟代表、全国住居運動交流センター代表)
 八百 政正(日本農民組合全国議員団局長)
 渡辺 喜美江(北軍士救済母の会会長)

沖縄反戦地主会迎えて

鉄塔下で交流集会

反対同盟

鉄塔破壊に備え、全国支援態勢の強化を図っている三里塚・芝山連合空港反対同盟は、二十九日、沖縄の基地拡張に反対している沖縄反戦地主会の一団を迎え、初の交流集会を開いた。

「三里塚芝山連合空港反対同盟」の代表が十七日に開かれた

このとき、北原弘昭(反対同盟事務局局長)が「沖縄と三里塚は、権力の強圧の下で闘っているが、三里塚の勝利は沖縄につながる。勝利を自覚し、一丸となって闘いましょう」と語り、この日の対し上原副会長は「三里塚の闘いを学び、沖縄の平和建設のため、の闘いのかたまり」と語り、迎えた。

77.4.30 読売新聞



週刊

三里塚

編集・発行

週刊『三里塚』編集委員会

全学連三里塚現地闘争本部

千葉県成田市天神峰42

電話(0476)32-0418 梨付

革命的共産主義者同盟

東京都豊島区千早町1-11 前進社

電話(03)974-5501



石毛 博道
イラスト集

三里塚

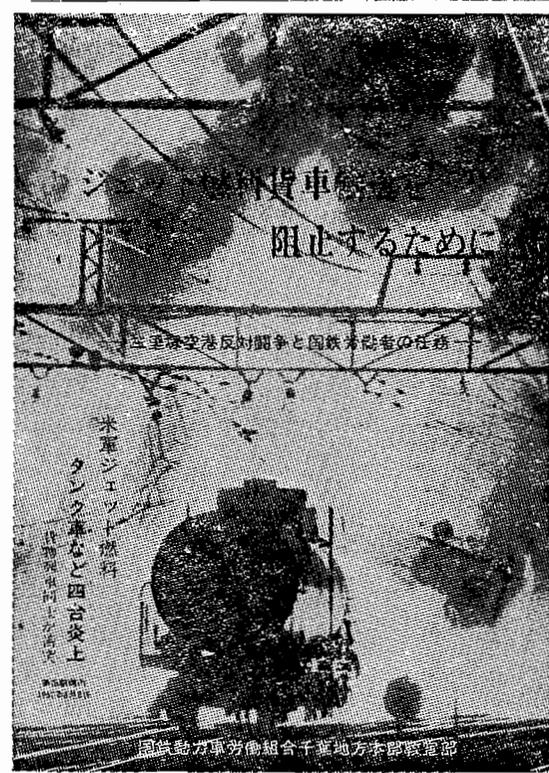
定価 1800円
送料 400円

■発行所/東方堂出版 TEL(03)815-5677
東京都文京区西片1の15の15(南部ビル3F)

■現地取扱所/石毛博道 TEL04797(8)0707
千葉県山武郡芝山町菱田578

好評発売中

上記のいずれかへ代金・送料をそえて
お申し込み下さい。



動労千葉の闘うパンフレット発行!

ジェット燃料貨車輸送を 1977・1 阻止するために

☆三里塚空港開港策動粉碎・ジェット燃料貨車輸送阻止に関する決議
……国鉄動力車労働組合第94回中央委員会
☆三里塚空港ジェット燃料輸送阻止を闘う、動労千葉地本の闘争宣言
……国鉄動力車労働組合千葉地方本部執行委員会

- ▷12年目をむかえた三里塚「空港」の現実
- ▷反対同盟の闘い
- ▷つぎつぎと破綻するジェット燃料輸送問題
- ▷まったく見通しのたない交通問題
- ▷おそまつな騒音対策と周辺住民の闘い

増刷出来

B5版 188頁 実売800円

編集・発行 国鉄動力車労働組合千葉地方本部教宣部

機動隊に抗議する
岩沢なほさん(岩)

南三里塚に大団結小屋

ただちに全国の力で
現地常駐態勢をきぎすけ

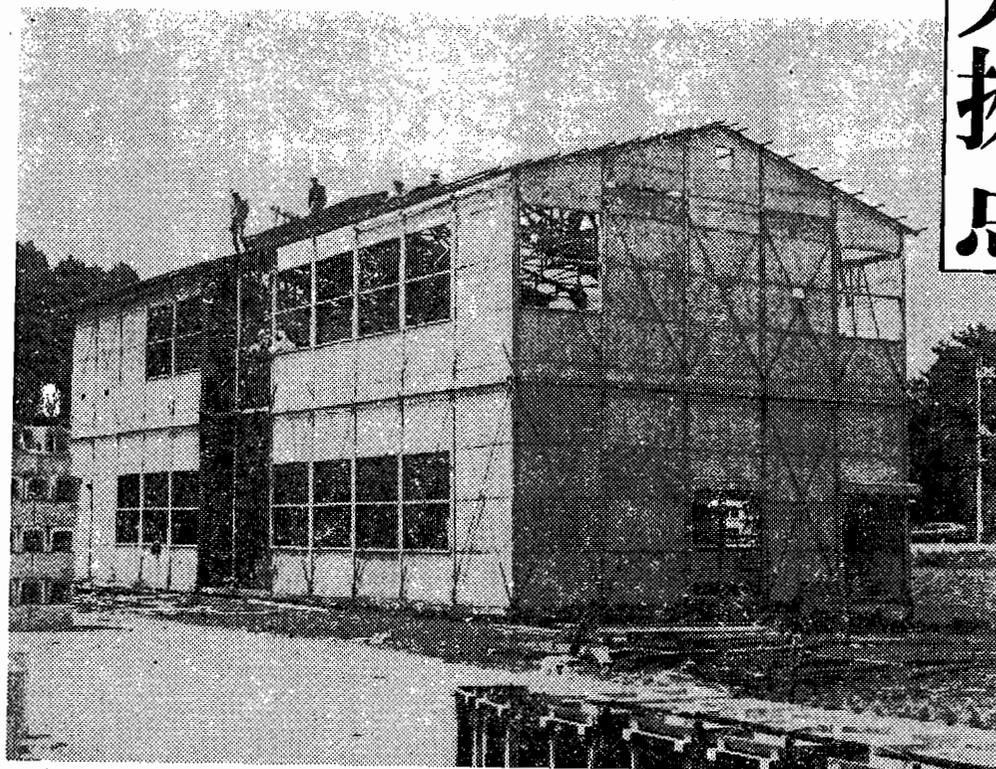
勝利への大拠点

三里塚闘争の歴史的勝利にむけたたたかいは、第一に、日帝の体制的危機にかられた朝鮮侵略戦争策動のつよまりのなかで、朝鮮侵略粉砕をかけて三里塚軍事空港の開港を実力で阻止し、空港そのものを実力で粉砕するたたかいである。

第二に、日帝の体制的危機のりきりかけた侵略と反動と暗黒の攻撃に抗し、全人民の結集と共闘の地、ソビエトにまで発展すべき可能性をもった革命的統一戦線の今日の形態——たたかう全人民の総本山としての三里塚を、断固として守り、発展させてゆくたたかである。

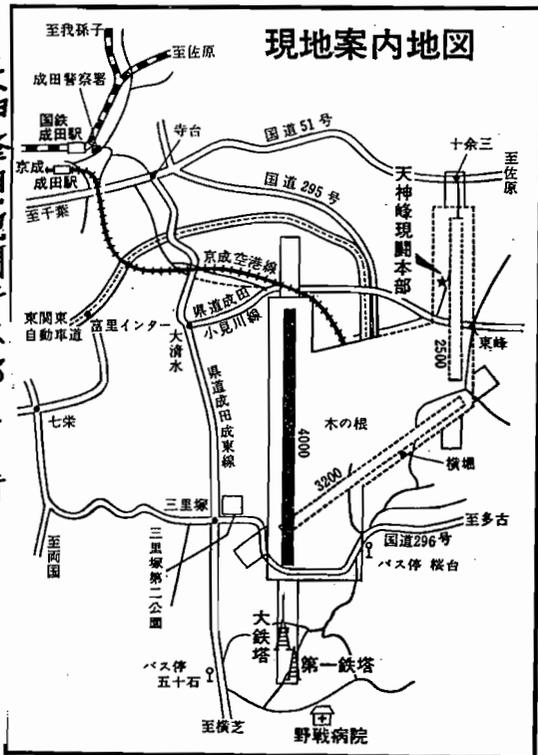
第三に、それゆえこの決戦に勝利する道は、わが実行委の八大家の實力闘争・無制限で強じんなゲリラ戦争・百万人大動員という革命的路線の貫徹によるいがいありえないのである。

南三里塚団結小屋の建設は、そのための強力な武器となるであろう。



南三里塚に建設中の大団結小屋。600人が宿泊できる（5月9日現在）

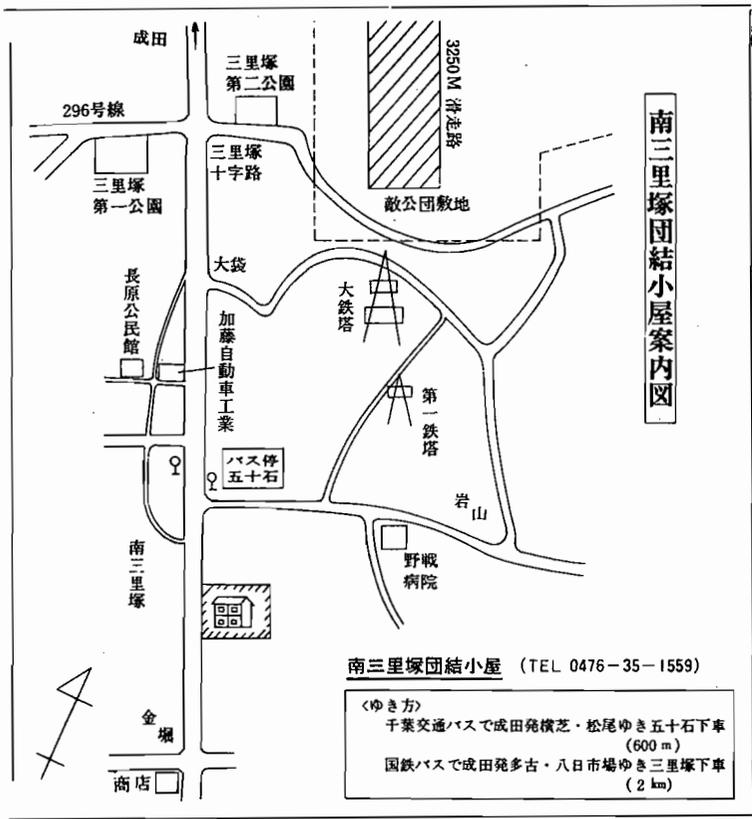
〔最大規模の団結小屋〕



天神峰現地闘争本部への行き方

TEL 0476-35-0418

千葉交通バスで吉岡至由佐原駅行
十余三下車、徒歩25分
千葉交通バスで栗原至由小見川駅行
天神峰下車、徒歩5分

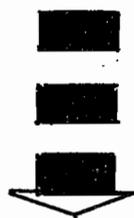


南三里塚団結小屋 (TEL 0476-35-1559)

〈ゆき方〉
千葉交通バスで成田発横芝・松尾ゆき五十石下車 (600m)
国鉄バスで成田発多古・八日市場ゆき三里塚下車 (2km)



憎むべき
ガス銃の
水平撃ち



¥200.

(1977. 5. 23 発行)